

春日台だより 第37号

令和6年11月5日

綾瀬市立春日台中学校

校長 吉田 勉

～学校教育目標～

すすんで学ぶ人 こころ からだ 精神と身体 건강한人 責任を重んじる人 心豊かであたたかい人

11月の朝会での教頭先生のお話を掲載します。



『感謝』

9月に行われた体育祭、10月の合唱祭では、皆さん一人ひとりが力を発揮し、一致団結して取り組んでいて、大成功に終えることができました。この成功には、生徒会や実行委員、各係、指揮者、伴奏者、先生…そして家族の支えがありました。私は支えてくださった方々に感謝します。ありがとうございました。

そこで、きょうは「感謝」について話したいと思います。

「感謝」を伝えるとき、「ありがとう」と言いますよね。では、「ありがとう」の反対の言葉は何でしょうか。「ありがとう」を漢字にすると「有難う」。「有る」ことが「難しい」ので、「めったにない」という意味になります。「めったにない」の反対は「よくあること」「当たり前」です。つまり、「ありがとう」の反対は「当たり前」です。

では、皆さんが思っている「当たり前」とはどんなことでしょうか。家族がいること、毎日ご飯を食べること、学校に行くこと、これらは「当たり前」ではありません。様々な状況で家族と一緒にいられなかったり、災害で食べ物がなかったり、戦争で学校に行けなかったりします。皆さんはコロナ禍で学校に行くことができない状況や「当たり前」と思っていた日常が制限された経験をしました。制限がなくなったとき、戻って来た日常を「よかった」と思いませんか。私は「当たり前」の日常の「有難さ」を改めて感じました。

ここで、話を「感謝」に戻します。何か特別なことをしてもらったときは「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えていますよね。では、「当たり前」と思っていたことに対してはどうでしょう。例えば、ご飯をつくってくれたことに対して「感謝」の気持ちを伝えていましたか。また、体育祭や合唱祭の様々な活動を支えてくれた人に「感謝」を伝えることができましたか。私たちの生活は、様々な人に支えられています。その支えは「当たり前」ではないと気づくことが大切です。気づいているけれど、「感謝」を伝えるのは恥ずかしい人もいるかもしれません。でも、勇気を出して伝えてみてください。「感謝」の気持ちを伝えると、自分も相手も幸せホルモンが分泌されるのでハッピーになるそうです。

ちなみに、私の出身の島根の方言では、「ありがとう」を「だんだん」と言います。諸説ありますが、「だんだん」は「重ね重ね」という意味で、感謝の気持ちを重ねて、深い感謝の気持ちを表しているそうです。「だんだんありがとう」から「だんだん」だけが残ったようですが、心があたたまる「暖暖」という意味も含んでいるとも言われています。「だんだん」で感謝を伝えると心があたたまって、ハッピーになっていると私は思っています。

最後に「当たり前」に思えるようなことに対しても、多くの人に支えられていることにも「感謝」して「ありがとう」があふれるあたたかな春日台中学校になることを期待しています。